

こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議
(2023/05/26)

資料 2

子どもと自殺対策

NPO法人自死遺族支援ネットワークRe
山口和浩

子どもと自殺

- 児童生徒の自殺者数は過去最多（2022年）
- SNS等で「自殺」を身近に感じるが増加
- 希死念慮を誰にも相談しない理由の約4割は「相談したいと思えない」

（日本財団子どもの生きていくカサポートプロジェクト『日本財団第5回自殺意識調査』報告書より）

遺された子ども

- 身近な人を自殺で亡くした子どもの存在
- 自殺統計（自宅62%、同居人あり65%）から考える遺児の状況
（令和4年 地域における自殺の基礎資料より）
- 「自殺予防」に対する戸惑い

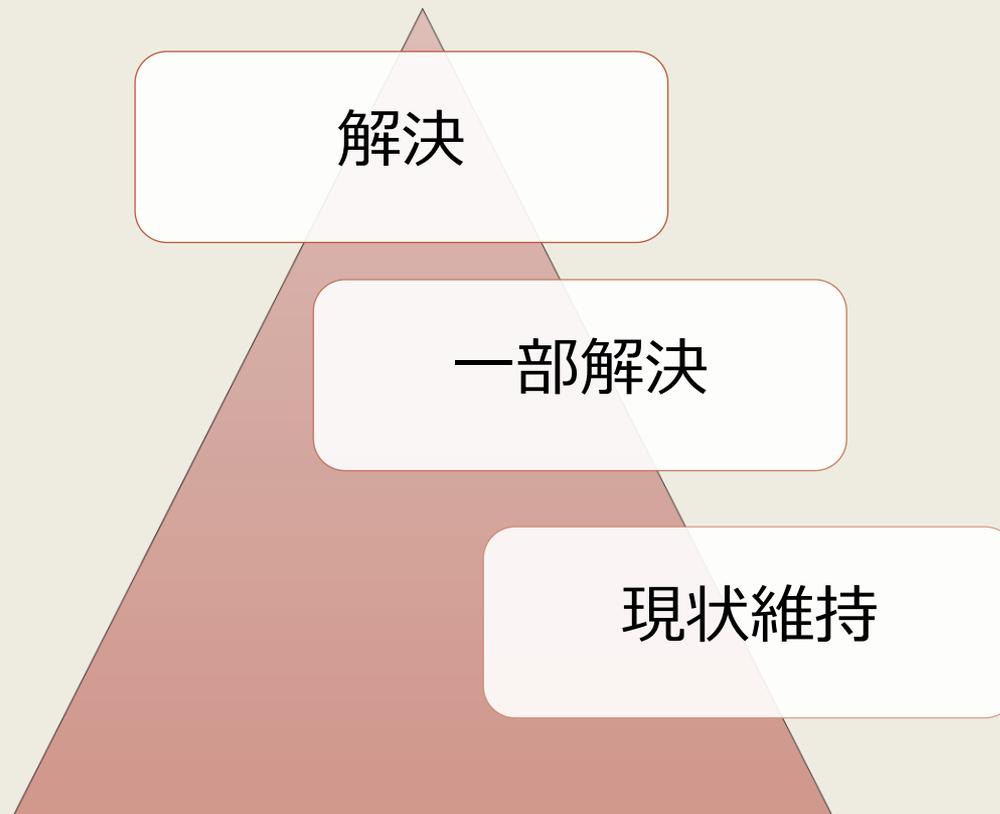
児童福祉の関わりを通して

- 虐待の影響
- 自傷、暴力、不登校、顕著な発達特性
- 大人や社会に対する不信感
- ケア充実に向けて

子どもを支える大人

- 子どもの近くで生活している大人（保護者等）が余裕を持っていない現状
- 子どもに関わる専門業種でのマンパワー不足
（教員、SC、SSW、保育士、社会的養護、児童相談所等）
- 家族支援の役割も求められる学校、教員

支援の目標



子どもの自殺対策に向けて

- 遺された子どもも意識した自殺対策
 - ・自殺予防の取組みにおける配慮、遺された子どものケアの充実
- 子どもを支える相談機関の人員拡充と環境充実
 - ・余裕のある人員配置、一時的でも過ごしやすい環境整備
 - ・弁護士や児童精神科医等による学校サポート
- 保育所へのソーシャルワーカー配置
 - ・虐待、貧困等の早期対応と就学時の適切なつなぎ
- 「育ち」を支える緩やかなサポート体制
 - ・子どもの力を信じながら見守る大人の存在
 - ・ひっそり、こっそり、ゆっくり悩めるような場も必要